



早稲田大学図書館

文書 27

H 19

1



婦29
H19



しりしり

百人一首

百人一首

占保八年五月廿一日

百人一首

天智天皇

秋乃田のりかた席の巻とあ

のりかたもはるるわれつ

持統天皇

春のくさるる

あまのくさるる

飛騨守

七 和田北原に十鶴けく清出ぬる
人の中ははるる海士乃はり舟

徳丸大吏

八 びくりにりみら踏くらたふ麻の
しふさくすく村るのわらふ

中納言行平

九 立別くる米のこれ巻よおつる
しむしむさるは今くらん

土原重平納言

十 子も振袂代とまうらぬ龍田川
しむる井ふあくらぬは

友原教川約尾

土 豊心乃事

後乃のしん院人のしん事

湯来院

三 筑波祇の豊乃ち落乃みる此川

意乃にの事して関乃るん

こ

小野小町

十五 花乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

長撰法師

十六 我店乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

僧心遍照

津風雲は花妙のしらべ
しやのしらべのしらべ

蟬丸

十六 ともはちと帰るもふも
知しわらわの坂乃岡

河原老大臣

十七 津奥はあふらり津核へ
我をわらわ

えん者ら

十八 君のしめまらけふ出らりな橋
つらあふり言はぬゆりは

伊勢

九 難波の種よあしの物成

あけくけいせきよらうらな

元良親王

十 俺ねん今ころる難波

見とほらうらなとを里

源宗平物語

十一 山里はみきしりうらな

うらなとあそびあそびは

素性法師

十二 今もじりうらな長月の

うらなうらなうらな

菅家

昔は度はなほいふなりあはれ

みちの錦神のまふ

壬生忠岑

あつらひきくみ

あつらひきくみ

三六奉仕

徳内頼恒

いあふらけむか

いあふらけむか

紀友則

久方乃あつらひ

あつらひ

父屋藤秀

吹くは林乃事本此高けりれ
しんしん

此貫之

人さしんしん
の事本自しん

坂上是

則

朝は者乃明乃月乃事本
しんしん

大江千里

月乃事本此高けりれ
しんしん

友原興風

誰とも知へん言ふ砂塵
招とじし乃友ちりけり

春道列樹

山より風乃けりる志
るもとあつぬもみらなり

春道列樹

浅草生れよの隣原思ふは
あつてさよとらんりけり

友原朝康

志し流し風乃れり
つらぬといふぬもみらなり

名世一

人乃金れ行しゆ何るれ
馬くはるる思ひは世を

中泊言教忠

逢ふくはばるしゆれ
じしは物をばりきり

和紙云物か

あや中れあそはるる
しゆはるるしゆはるる

示心感

あや中れあそはるる
しゆはるるしゆはるる

云其意見

窓より下りて見ゆれば
人より見ゆれば

福徳云

後より下りて見ゆれば
もより下りて見ゆれば

清原深草云

夏より下りて見ゆれば
雲のいりて見ゆれば

貞伝云

小倉山より下りて見ゆれば
いま一より下りて見ゆれば

二陳若大長

名ふはけの坂山は
人へはくはくは

中納言道輔

みろ原のまゝの
はなみはくはくは

清原元輔

契りされの
丁忠乃松山浪

源重光

風とみ若うの
くはくはくは

右大将道徳母

此の世に生れしは
久き物とて志家

能因法師

嵐吹みじろ丸山乃る新は
立田の川此海なりわ

良暹法師

ありし宗看と立出く詠れ
はるる一林乃夕ふれ

大納言公任

流乃春はくそく
はるるしは松林さうこ多連

清女納言

新ひよと馬の心ひひけるを
母あふ坂の向は梅の枝

和泉式部

あはれまはせぬかた思ひあり
はな一ひのあまのま

大貳三位

有馬のなるはけの春風あけを
いそぎよとてなほあはれ

赤法老

あすはけの福をま物いそぎ
かゆ梅もそと月とみ

宗感部

あつあつとみよはれはるる
雲のくまはるる月を

伊弉布

あつとみよはれはるる
あつとみよはれはるる

小武部内伝

あつとみよはれはるる
あつとみよはれはるる

指中納言之類

あつとみよはれはるる
あつとみよはれはるる

左京大吏道雅

今なき思ふ海らんこころりや
人ほくるそていふしそ

圓防内侍

春乃花れ後けりけり花
けいけりたらん名うたれ

大細言師伝

夕々禮のついでしる葉香しけり
あふまらるる林の葉を物

藤大僧正の言

花よりあはれしおのころり
花よりあはれしおのころり

お中納言は唐

ふあ乃尻とれ揚ありさしりあ
かしのしひんさすしりあ

袖子内親王家記伊

あしきくたの漢のあしき
けちあゆめあしき

あしき

うしきあゆめあしき
あしきあゆめあしき

源後頼朝臣

あしきあゆめあしき
あしきあゆめあしき

崇徳院

世

御成りもさきより御成りなれば
御成りの御成りなれば

約談の院御行

長らくいひし御成りなれば
みまはしむる御成りなれば

はまの御成りなれば

和国御成りなれば

雲井の御成りなれば

右京右史御成り

侍成りたる御成りなれば
とれ出る月乃新の御成りなれば

源道昌

あつらひのつとよき島にありて
まゝに福をいせぬと海の舟

友原基俊

契りて此の世も病と命あは
あつらひのつとよき島にありて

道因法師

思ふ境ありて命はあつらひ
あつらひのつとよき島にありて

藤原清輔朝臣

あつらひのつとよき島にありて
あつらひのつとよき島にありて

後通法師

名

英...物思ふ...のり

福...は...も...

後述大寺大尼

部...のり

...のり

皇太子...後成

中...入

...麻...

...法師

...物...

...海...

皇太后院別當

罪愆にりきるもねのしあひん
もくはくしてやまひのしん

教皇の院大権

かたむねもくもくあはれん
われふらぬくあはれん

太子内親王

玉乃よきまはるるあはれん
志れらるるあはれん

宗道法師

急むる病とまはるるあはれん
あはれんあはれんあはれん

夫

二條院讃歌

我意は志のひりみぬ沖のそは
人よりほのほのほ

後京拾遺歌あなごた

まらくもあやふれいじりふ
ころもかきくろくろを福ん

あなごた

はなもろくつと毎の民よわがふ
のころもあやふれいじりふ

春歌雑詠

みづのいれ秋風あやふれ
ゆらつとさしきふらつとわ

徳倉大佐

申すはあつとふとふとあつと

海士の小舟乃はるくあつと

正二位家隆

風花もくあつとふとふとあつと

みづあつと夏れあつとあつと

権中納言定家

来ぬんあつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつとあつと

花蝶

入さあつとあつとあつと

花あつとあつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつとあつと



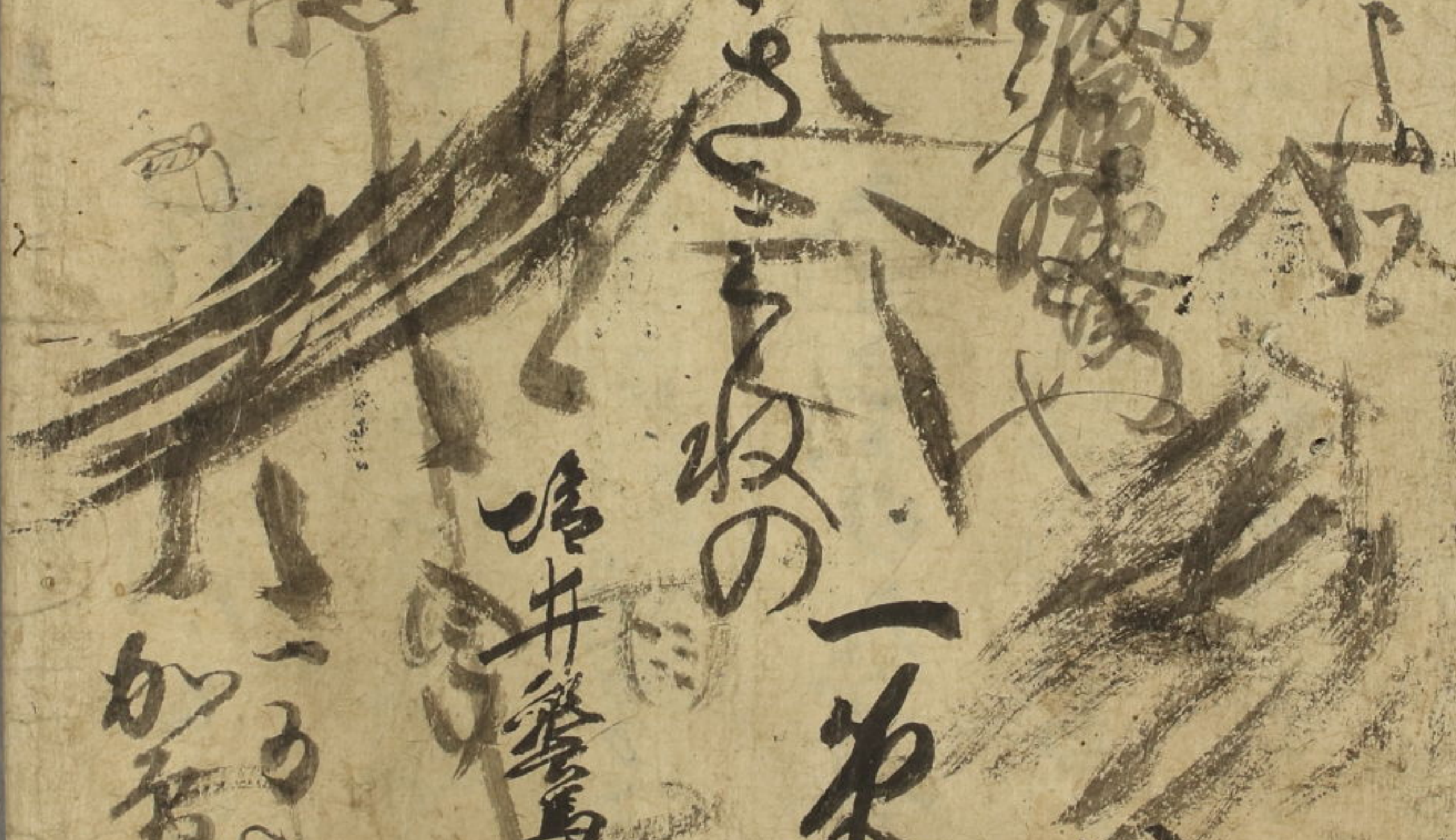
一石の

百貫

石

山田丸
長徳

又
一石の



一石の

一石の

公方様

加

又

又

塩硝

塩硝

塩硝